

「健康小話」

「ヘキサゴン・Ⅱ」



産山村診療所
渡邊克己 先生

テレビの世界も衛星放送や、デジタル化などでどんどん変わってきています。海外の実況放送などが見られるのは、時差を気にしなければそれは其れで楽しみが増えます。放送が始まった昭和の中頃に比べると、時間帯もチャンネル数も雲泥の差です。

人気の高い番組の一つにクイズ番組があります。脳トレも脳年齢も話題になる昨今、テレビのクイズ番組はけっこう楽しめます。ところが最近ちょっと雰囲気の違いクイズ番組があるのです。人気アイドルでありながら妙な笑い受けが自慢？なのです。

会話や交流の面白さを演ずる漫才には、「ボケ」と「突っ込み」という役割があるそうです。ところが時に大きく外して「ずっこける」場面を演出することもあります。この「ずっこけ」が日常的に出てくるのです。一般社会で生活している思考回路では理解できないのです。この落差を視聴者に楽しんでもらおうと、司会者は演出します。

これらを演じるアイドル達は「おバカキャラ」と呼ばれています。熊

本出身の某アイドルも、パーセント計算が出来なくて「熊本ではパーセントは教えていません」などと公共の電波を使って明言していました。要するに「読み」「書き」「そろばん」の基礎知識が足りないのです。正常な養育・教育環境に置かれても知的水準が獲得できない場合を精神発達遅滞と言ひ、一度獲得された知的水準が成人後何らかの理由で低下するのを痴呆といいます。以前、「ご長寿クイズ」と称して様々な珍答・奇答、反応などを放送している番組がありました。これは認知症の病態理解をしていれば納得できましたが、収録が大変だと言うこともあり、随分前に無くなってしまうました。それに比べると「おバカキャラ」の存在は貴重です。その思考回路が理解できればすぐ了解可能になります。かつてテレビが普及し始めた頃、某評論家が「一億総白痴化」の時代がくると憂えていましたが、「白痴」「痴呆」が差別用語の現在、「一億総認知症化」とでもいうのでしょうか。

Hello ノーランです！

翻訳：産山中学校 山崎 綾子先生



こんにちは、ノーランです。来月、私はアメリカに帰国することになっていますので、これは最後の広報になると思います。2年間、産山で働くことができたことを光栄に思います。この2年間はいろいろな思い出ができました。そして、私はたくさんのことを学んだと思います。とてもいい経験でした。

将来、私はアメリカの高校の社会の先生になりたいと思っています。なので帰国してから、先生の免許をとるために大学院に行く予定です。アメリカのニューヨーク州は日本と違って、職員免許を取得するのに大学院まで行かなければなりません。卒業するまで、普通は2年間位かかります。私はすでにQueen's College (クイーンズ カレッジ) という実家の近くにある大学院に合格しているので、そこに行く予定です。とりあえず、実家に戻って生活する予定ですが、帰国してからアパートを探すかもしれません。

この2年間、産山の村のみなさんは私に親切にしてくださって、とてもありがたく思っています。産山の生徒と保護者は、いつも積極的に声をかけたり、褒めたりしてくださり、私は毎日安心して過ごせました。2年間、産山の生徒と一緒に勉強でき、やりがいを感じています。

今の生徒達の成人式には、みなさんを見に、必ず産山へ戻ってきたいと思っています。アメリカの学校の先生は、日本の学校の先生と違って、夏休み中何も仕事をしないから、もし私がアメリカの先生になったなら、産山に戻る機会がたくさんあると思います。また遊びに来るつもりです。その時はよろしくお願いします。この2年間本当にありがとうございました。

